



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

若手ワーキンググループの活動状況

はじめに

コロイドおよび界面化学部会若手ワーキンググループ（以下WG）では、本年度で3回目となる若手研究者や学生を対象とした合宿セミナー「未来のコロイドおよび界面化学を創る若手討論会」を開催しました。またWGの発案により、本年度よりコロイドおよび界面化学討論会において、35歳以下の研究者、学生を対象とした「若手口頭講演賞」の表彰を開始しました。ここでは、これらについてご紹介させていただきます。

若手討論会

合宿セミナー「未来のコロイドおよび界面化学を創る若手討論会」は、例年コロイドおよび界面化学討論会終了後にポスト・セミナーとして行ってきましたが、本年はプレ・セミナーとして、鹿児島大での討論会の前、9月8日(火)・9日(水)に鹿児島湾に臨むホテルウェルビュー鹿児島で開催しました。

このセミナーは、同年代の産官学の若手研究者同士の知的交流を通じて、将来的にコロイド・界面化学分野を先導する若手研究者の育成と活性化を図ることを目的としており、当部会の科学奨励賞・技術奨励賞の受賞者による講演や、注目する若手研究者らによる研究紹介および少人数に分かれてのグループ討論を行いました。



招待講演では、ゲルポンプ一体化型マイクロチップの開発（産総研 原雄介先生）、極小空間中での分子物性科学（千葉大学 大場友則先生）、皮脂汚れを利用したマイルド洗浄（花王株式会社 加賀谷真理子様）について、基礎から最新の成果まで、わかりやすくお話しいただきました。研究内容に加えて、ご自身の経歴や、現在の研究にいたった経緯、研究に対するポリシーなどにも言及され、参加者には示唆に富んだ内容であったと思います。

引き続いて、学生2名を含む産学の若手研究者4名に、最新の研究成果について講演をいただきました。2日目には、専門を偏らせない形で3グループに分かれ、グループディスカッションが行われました。またエクスカージョンとして、貸切路面電車による市内観光を行いました。

コロイドおよび界面化学部会は、微粒子、組織化膜、界面活性剤、固体表面など多岐にわたる分野が対象となっており、部会討論会でも5~6の平行で発表が行われます。参加する学生も、自

分の研究分野に近い発表のみを聞くことが多くなってしまいましたが、このセミナーは、共通点を多く持ちながらも普段触れることの少ない、コロイドの異分野の最新の研究に触れる機会となりました。また、就職を控えた学生にとっては企業の若手研究者の発表を聞いたことが大変貴重な機会となったようでした。部会討論会の前に合宿を行ったことで、他の参加者と顔なじみとなり、その発表を聞きに行くなど、視野を広げるのに役立ったのではないかと思います。

若手口頭講演賞

WGメンバーを含む多くの方の協力によって審査を行い、8件（うち学生2件）の口頭発表を「若手口頭講演賞」として表彰しました。受賞者の研究概要は部会誌「Colloid & Interface Communication」に順次掲載される予定です。

おわりに

若手ワーキンググループでは、若手研究者をエンカレッジし、互いに刺激を与え、連帯感を育み、将来にわたって切磋琢磨していけるような友人と知り合う機会を提供したいと考えています。今後も皆様のご支援をお願いいたします。

〔若手ワーキンググループ
飯山 拓（信州大学）、松原弘樹（九州大学）〕

© 2016 The Chemical Society of Japan